

食材になった動植物に感謝

飯伊調理師会が供養祭

飯伊調理師会(本以、毎年9月に開いた。今年も、高野八幡宮で動物供養祭を開いた。役員を中心に約10人が参加し、1年間の調理業務で用いた食材に感謝の気持ちを捧げた。10月1日に同県内に動物供養祭を催すのを導き立て



ウナギを介した本以田会長

飯田の和菓子製造販売「いとうや」
飯田市本町の和菓子製造販売「いとうや」は、本年度の食品衛生優良施設として厚生労働大臣表彰を受け、25日に伊藤社社長もが松岡市長、飯田保健所長に受賞を贈呈した。伊藤社長は「飯田の茶の創業77年の同社は、十三年前に建物を工場、店舗まよりの衛生面を徹底し、なるよう改善に努めているほか、従業員の健康管理にも努めている。これらの功績で、これまでに県食品衛生協会や知事表彰なども受賞。本年度、県内では食品衛生功労者で四人、食品衛生優良施設で三施設が大臣表彰を受けた。伊藤社長は「飯田の茶の文化を伝える和菓子を安心して召し上がっていただけるよう、ひたすら努力してきました。今後も食品衛生の向上に貢献したい」と喜びを話した。(須田雅仁)



表彰状を受け取った高下さん(左)

食品衛生優良施設で厚労大臣表彰を受賞



厚労大臣表彰の感謝状を報告した伊藤社長(左)と飯田市の飯田保健所長(右)と伊藤社長

人に送付する就労制限の解除通知、名前や住所などを記載してあった封筒の宛て先と中身を取り違えていたという。指摘を受け、県の担当者が再度入念に確認したという。同課は「担当者が一人送付する就労制限の解除通知、名前や住所などを記載してあった封筒の宛て先と中身を取り違えていたという。指摘を受け、県の担当者が再度入念に確認したという。」

感染氏名など記載の書類 飯田保健所が誤送付

県は24日、飯田保健所(飯田市理事町)が管内の新型コロナウイルス感染者の氏名など記載の書類を2人に送付する就労制限の解除通知、名前や住所などを記載してあった封筒の宛て先と中身を取り違えていたという。指摘を受け、県の担当者が再度入念に確認したという。

された感染者が保健所に連絡して発覚。不特定多数への影響がないとして、県はこれまでミスを発表していなかった。県感染対策課によると、書類はコロナ感染者から回復し

社会福祉功労者表彰を受賞

明星学園総園長の宮下さん

長年にわたって社会福祉の推進に貢献したとして、飯田市北方の宮下智さん(66)が、本年度の社会福祉功労者として労働大臣表彰を受賞した。4日は県飯田会館庁舎で授賞式が開かれ、飯田保健

福祉事務所の前所長が表彰状を手渡した。1987(昭和62)年から同市獣科の障害者支援施設「明星学園」の園長を務め、現在は顧問として施設を運営する。県知事がい

ている職員や障害的な人たちの家族の方々にいろいろとご支援がある」と感謝した。松岡市長は「障害者を持った人が生まれてきて良かったと思える社会の実現のため、これからは明星学園にほの一端を担ってほしい」と激励を寄せた。

阿南・保津両市長 薬物乱用防止に功績 県推進協会長表彰



表彰状を阿南市長と保津市長に授けられた

阿南・保津両市長、二年度には県内各地域振興局管内に三千以上の薬物乱用防止指導員を養成された。指導員は産業や観光など薬物の乱用を防止する「タスマン」や、「キヤベーン」での街頭啓発など、地道な活動に取り組んでいる。飯田保健福祉事務所の松岡市長は「阿南市長から伝達を受け、松岡市長はこれまでにも、薬物に対する知識をもとに、有名人の薬物使用などに影響を受けやすい若年層に薬物防止を呼び掛けてほしい」と喜びを話した。

「再発防止に取り組む」

書類誤送付で松岡所長が謝罪

飯田保健所が管内の新型コロナウイルス感染者に関する書類を送付していたところ、松岡市長が「書類はコロナ感染者から回復した人に送付する就労制限の解除通知で、名前や住所、制限の期間などが記載してあった。ミスが大きかった」と謝罪した。同保健所や県感染

症対策課によると、書類はコロナ感染者から回復した人に送付する就労制限の解除通知で、名前や住所、制限の期間などが記載してあった。ミスが大きかった。8日に送付した人分のうち、二分の一と述べた。

身を取り違えていたという。10日に誤送付された書類者から指摘を受け、発覚。10日に同保健所の職員が二人に直接謝罪した。松岡市長は「二度に確認すべき部分をその日は怠っていた」とし「このうち、なミスを防ぐための体制を構築し、再発防止に取り組むたい」と述べた。

1989年2月から昨年3月末まで、飯田市の医療従事者への新型コロナウイルスワクチン接種がスタートした。飯田市の保健所では、高齢者や障害者への接種を優先している。保健所では、高齢者や障害者への接種を優先している。保健所では、高齢者や障害者への接種を優先している。

の支えのおかげ。ただ「これは」と話した。川西さんは海外へ移住した。川西さんは海外へ移住した。川西さんは海外へ移住した。

を勤務先に選んだ。川西さんは海外へ移住した。川西さんは海外へ移住した。川西さんは海外へ移住した。

「感謝状をいただきました。川西さんは海外へ移住した。川西さんは海外へ移住した。川西さんは海外へ移住した。」



川西さん(右)と松岡所長

長年地域医療を支える

元天龍村 川西政幸さんに知事表彰

松岡所長は「長年、地域医療を支え続けてこられた。今後、医師会や保健医療に協力して、山間部の天龍村診療所に、川西さんのような医師が活躍してほしい」と話した。

の指導にあたり、帰国後は、国内にも無医村などの課題があることを知り、地域医療を支えようと、山間部の天龍村診療所に、川西さんのような医師が活躍してほしいと話した。

取り組んできた。川西さんは海外へ移住した。川西さんは海外へ移住した。川西さんは海外へ移住した。

「一回目以降副反応」飯田の医療者でも健康や発熱報告。県飯田保健所の松岡裕之所長は「一回の新規接種をした後、副反応の発生は極めて少ない」と話した。

が、全身倦怠感や発熱が、接種後24時間以内に発生した。松岡所長は「一回の接種後、副反応の発生は極めて少ない」と話した。

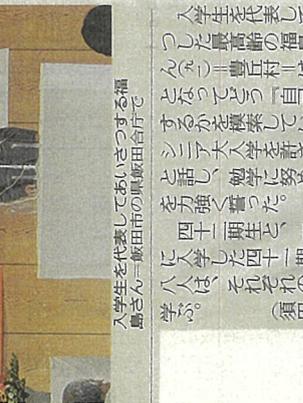
が、全身倦怠感や発熱が、接種後24時間以内に発生した。松岡所長は「一回の接種後、副反応の発生は極めて少ない」と話した。

大鹿の食改推進協に厚労大臣表彰を伝達。飯田協議会。大鹿村食生活改善推進協議会(神崎あさ子会長)は、厚生労働省から、食生活改善推進協議会への表彰状を伝達された。

飯田市の南信消費生活センターで開いた食改協議会の席上、飯田保健福祉事務所の松岡裕之所長が表彰状を伝達した。松岡所長は「長年、大鹿村の食改推進活動に積極的に協力した皆さんの努力が認められ、この表彰状を伝達した。食改推進協議会への表彰状を伝達した。」

健康で交流の輪を広げよう。県シニア大学飯伊学部再開。コロナ禍で2020年度は休講した原シニア大学飯伊学部が、再開した。11日、飯田市の飯伊保健福祉事務所では、健康で交流の輪を広げよう、食改推進協議会への表彰状を伝達された。

入学生を代表してあいさつする福嶋さん(左)と飯田市の飯伊保健福祉事務所。入学生を代表してあいさつする福嶋さん(左)と飯田市の飯伊保健福祉事務所。



入学生を代表してあいさつする福嶋さん(左)と飯田市の飯伊保健福祉事務所

飯伊でもワクチン接種開始

3日間で医師ら75人予定

飯田市内中平の健和会病院で18日、飯田伊那地域の医療機関では初となる新型コロナウイルスワクチン接種が始まった。県飯田保健所に沿ってワクチンは、同病院を通じて飯伊の8病院に配布され、医療従事者への接種を優先している。

接種を優先している。接種を優先している。接種を優先している。接種を優先している。接種を優先している。

接種を優先している。接種を優先している。接種を優先している。接種を優先している。接種を優先している。

接種を優先している。接種を優先している。接種を優先している。接種を優先している。接種を優先している。



ワクチン接種を受ける医師(健和会病院)

飯伊の新型コロナウイルス対応発表

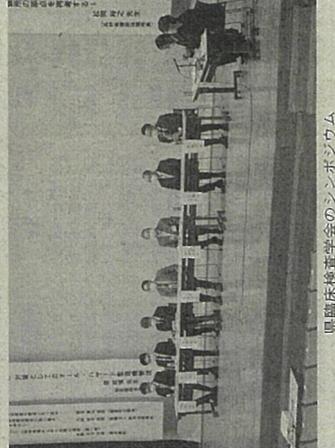
県臨床検査学会シンポジウム

県臨床検査学会が28日、飯田市長松尾代田の飯田女子短大で開いた。一般公開のシンポジウムでは、新型コロナウイルス感染症への飯田・伊那地域の取り組みをテーマにした発表があった。

県内約140人の臨床検査士が年に一度、一堂に集まる学会。飯田での開催は昨年夏季定例会が、コロナ禍で1年延期に。一般公開のシンポジウムの他、各種分科会、研修会が盛り上げられた。県臨床検査技師会の重原正明会長は、シンポジウムは臨床検査技術者がPCR・抗原検査を進め、

真相を報告。男女別や年代別の特徴、時間経過による抗体価の減少を報告し、回目の追加接種に効果が見込めると示した。飯田医師会の原政博会長は「オールハート型」の危機管理をテーマにした飯伊のパンフレットを配布し、早期対応を報告。▽早期発見・早期隔離のラスト対応は患者の受け入れ準備（3つをターゲット）に注力。検査センターは、検査後の抗体価の調

査結果を報告。男女別や年代別の特徴、時間経過による抗体価の減少を報告し、回目の追加接種に効果が見込めると示した。飯田医師会の原政博会長は「オールハート型」の危機管理をテーマにした飯伊のパンフレットを配布し、早期対応を報告。▽早期発見・早期隔離のラスト対応は患者の受け入れ準備（3つをターゲット）に注力。検査センターは、検査後の抗体価の調



飯伊の新型コロナウイルス対応発表の様子。県臨床検査学会のシンポジウム。

薬物乱用防止を啓発 飯田の吉川さん表彰

県合同庁舎で伝達式



表彰を授けられた吉川さん。飯田市の真壁会館で伝達式。

飯田市上野黒田の薬剤師吉川愛子さんが、県薬物乱用対策推進協議会会長表彰を受け、二十五日に県飯田合同庁舎で伝達式があった。吉川さんは市内の薬局に勤めるが、一九九八年からは、県薬物乱用防止員や飯田高校の学校薬剤師に就任。小中学校や高校、地域社会の啓発活動に積極的に関わっている。松岡幸彦飯田保健福祉事務局長から表彰状を伝達され、吉川さんは「全国で麻の乱用が顕著される人数は年々増加し、若年層が占

める割合も大きい。進学などで都会に出た地域の若者が、興味本位でついでに頼まれてこそ薬物乱用に陥らないよう、今後も啓発していきたい」と話した。本年度は県内の八人と一団体が同表彰を受けた。(須田唯仁)

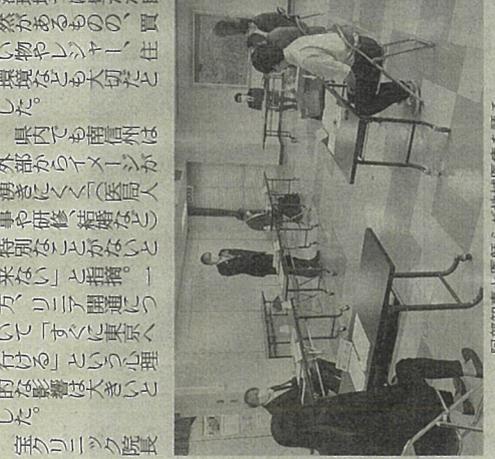
地域医療つなげるには

移知事室 阿部知事が医師と懇談

「あわじ信州移動知事室」の初日となった27日午後、阿部守一知事と飯田・伊那地域の医師らによる懇談が行われた。地域医療の課題について、次世代の医師の確保や過疎地域の医療提供体制の維持などについて語り合った。

次世代の医師確保の立派な柱は、リニア開通を契機に、高齢化した職業医の事業継続で外部から医師を呼び込むことや、相応のガスト

体制について、阿部知事は、オムニバス診療の取り組みを紹介する一方、遠隔にはオンライン診療の提案をした。阿部知事は、オムニバス診療の支援について医師会との協議が必要としながらも「過疎地域では使っていない」と指摘を平した。



阿部知事と医師らが地域医療を語る。飯伊の医療関係機関が患者の同意を得て情報共有する「ISM-LINK（イスマリンク）」の取り組みについて、阿部知事は、コロナ禍で宿泊療養施設と医療機関との間で患者情報の共有に苦労したとし「コロナだけでなく他の医療にも必要を。他地域にも広げたい」と話した。



飯伊の14市町村長 オンラインで議論 広域連合議

飯伊の14市町村長 オンラインで議論 広域連合議... 飯伊の14市町村長 オンラインで議論 広域連合議... 飯伊の14市町村長 オンラインで議論 広域連合議...

感染対策のため初めはオミクロン株の検査... 飯伊広域連合でオンラインで

間が経っても、感染後症状がでるのには未接種者よりはるかに早い。パニックになる必要はない」と話した。

ウイルス量の増加が早いとされるオミクロン株については「検査のタイミングは、従来の接触から半日以上経過後ではなく、四十八時間後が望ましい。二十四時間ごとさらにも回復するのがベスト」と助言した。

飯伊市の佐藤健市長は同市の簡易検査キット無償配布について、健闘の集積で在り切れに近い状況を説明。「配り方を考えたい。医療機関や介護施設で使うことには切らない。今までのように市民に配布するのではなく、こうする」と話した。

飯伊人口の1.2%が感染

全国より傾向少ない 新型コロナ初確認から2年

1月からの第6波で飯伊人口の1.2%が感染した。飯伊市保健所の松岡裕之所長は「この地域は比較的少なく抑えられている」と指摘する。飯伊お祭りまつりや年度末・年度始めを迎えるにあたり、県や各市町村は、改めて感染防止対策の徹底やワクチン追加接種を呼び掛けている。

飯伊の人口約12万人のうち、約1.2%ほどが新型コロナウィルスに感染した。今年3月1日現在の累計で619人で、日本の総人口約1億5000万人に対する感染率は約0.004%に過ぎない。松岡所長は「全国的に累計で619万人で、日本の総人口約1億5000万人に対する感染率は約0.004%に過ぎない」と話した。

飯伊の人口約12万人のうち、約1.2%ほどが新型コロナウィルスに感染した。今年3月1日現在の累計で619人で、日本の総人口約1億5000万人に対する感染率は約0.004%に過ぎない。松岡所長は「全国的に累計で619万人で、日本の総人口約1億5000万人に対する感染率は約0.004%に過ぎない」と話した。

飯伊市や飯伊市保健所は、感染力が強い変異株「オミクロン株」による第6波では、感染してから短時間で体内のウイルス量が増加し、知らないうちに人に感染させてしまう可能性があると、マスク着用の徹底を呼び掛けている。

マスク着用の徹底を

第6波の特徴 市や保健所が短時間でウイルス増加を呼び掛ける

飯伊市や飯伊市保健所は、感染力が強い変異株「オミクロン株」による第6波では、感染してから短時間で体内のウイルス量が増加し、知らないうちに人に感染させてしまう可能性があると、マスク着用の徹底を呼び掛けている。

佐藤健市長は「医療機関や高齢者施設で働く方などは、家庭内でも気を付けてほしい」と話した。第6波では、感染力が強いもの、軽症のままで治癒することが多く重症化する例は少ないという。

飯伊市保健所は「健康観察重点を増やすこと」を呼び掛けている。飯伊市保健所は「健康観察重点を増やすこと」を呼び掛けている。



飯伊市保健所 新型コロナウィルス(COVID-19) 第6波の傾向 2月2日、飯伊のみに感染を拡大するオミクロン株が出現

多い場合でも1日以上の例と保健所の数と同程度で対応が困難だった。第6波では、他部署や他保健所からの応援で人員を増やしたものの、マスク着用を徹底している。検査調査での行動履歴の聞き取り範囲を週間から2日前までに短縮。感染源を特定するのは難しく、感染しているかもしれない濃厚接触者や接点者の特定を重視した。また、感染者への連絡を保健所からではなく感染者本人が行う対応に

変。接触を自覚した本人の要望により検査を行う方式にした。松岡所長によると、接触者全員を検査する必要があると、接種を自覚した本人が行動を抑制することと、その後の感染拡大を抑える狙いだ。また、濃厚接触者や接点者の特定を重視した。また、感染者への連絡を保健所からではなく感染者本人が行う対応に

調理技術発展・指導に尽力

市吉屋そば店 小林さん 厚労相表彰



厚労相表彰状を受け取った小林さん(右)ら。飯田市の県飯田合同庁舎で。

飯田 飯田市東中
岳通二丁目吉
屋そば店を営む小林明
さん(68)が、二〇二三年
度の調理師関係功労者
表彰として厚労大臣表
彰状を受け、二十日に
同市の県飯田合同庁
舎で表彰状が伝達さ
れた。

小林さんは、県や県調理師会の調理技術指導員として、九九八年から計二十四年間、同会飯伊支部の技術指導部長を二〇一〇年から七年間務めた。一九二六年から続くそば店を継ぎ、調理に従事しながら指導や調理技術の発展などに

尽力し、調理師制度の整備や調理業務の三部門の功労者表彰を受ける同表彰状で、調理業務功労者(七十二)の一人として表彰された。

これまでの活動では、地元調理師会が児童福祉施設で開いている料理教室で、子どもたちが身につけた笑顔が印象的だったという小林さん。県飯田保健福祉事務所の総岡裕之所長から表彰状を手渡され「地域に貢献でき良かった。これからも少しでも力になりたい」と話した。

(近藤麻由)

2023年(令和5年)3月16日 木曜日

南 信 州 新 聞

食生活改善活動に貢献

吉澤さんに厚労大臣表彰



吉澤さん(前列中央)に大臣表彰

長年にわたり食生活改善推進協議会の活動に携わってきた吉澤良子さん(70)が、栄

関係者厚労大臣に表彰を受賞した。13日に県飯田保健福祉事務所で伝達式があり、松岡裕之所長から表彰状が手渡された。

吉澤さんは1990

年に食生活改善推進協議会に入会し、飯伊の支部長と厚生部長を各二年、松川町食生活改善推進協議会を9年間務めるなど、組織の中心になって活動の充実

強化に努めてきた。飯伊支部支部長の任期中には「食事メニューガイド」や「県民生活の制作に携わり、支部長時代には支部創立40周年の記念文集編纂や記事集作成に尽力。現在も高校生や小学生などに対する地域の伝統食の伝承など地域の食生活改善に取り組んでいる。

表彰を受け「食生活改善活動は、振り返ればあつという間。続けてこれたのは皆さんのおかげ。多くの人との出会いが私の宝物になった。皆さんと一緒に楽しい食生活活動を進めていきたい」と話した。

南 信 州 新 聞

2023年(令和5年)3月1日 水曜日

仲間と共に学んだ2年間

シニア大飯伊学部卒業式

県シニア大学飯伊学部の卒業式が、27日、飯田市若手町の県飯田合同庁舎であった。第1期生37人が卒業証書を受け取り、新型コロナウイルスの影響による仲間と共に学んだ2年間を振り返った。

卒業式で学部長の松岡裕之飯田保健福祉事務所長は卒業後も自らの生きがいと健康づくりを進め

ながら学んだことを生かし、さまざまな分野で積極的に活躍することを希望した。阿部守二知事からのメッセージ映像も上映された。阿部知事は来年度からの新年度に「兵衛のハート」対話の相手として引き続き政への協力を呼びかけた。

卒業生を代表して自始会長の熊谷龍司

さん(70)は同市長野原は「仲間と学べる2年間だった。感謝の気持ちでいっぱい。育んだ気持はこの先10年、20年と長く生きていくことを楽しんでほしい」と話した。式典後、卒業祝いとして飯伊支部1年生によるメッセージ動画が披露された。

県シニア大飯伊学

部は、2023年度の学生を募集している。締め切りは3月1日。問い合わせは募集案内や入学書類は、県飯田保健福祉事務所に電話(0494)6-8411へ。



卒業証書を受け取るシニア大生